

インターネットと新聞、この2つの現在主流にな、というニュースの媒体について考えてみると、いくつか、一般的に言われていることが想起される。曰く、インターネットは新聞と比べて、情報の確実性が低い。曰く、新聞は自分で情報選択をする手間を省いてくれるから、インターネットよりも使い勝手がいい、云々。

ただ、インターネットがニュースの即時性やカバーする情報の広範性で新聞を凌駕しているのは明らかである。加えて、例えば大手新聞社の運営するサイトなどは大変充実しており、そこで新聞と全く同じ内容の記事が読めるようになる、というように、情報の確実性の上でも、インターネットは新聞と同等のものを提供していると考えられることが出来る。デジタルデバイドの問題性を考慮に入れても、インターネットは新聞よりも優れたニュースの媒体であるようにみえる。

と、ここまで、2つの媒体に載るニュースの質の観点から考察を進めてきたが、今のところ

これはインターネットが優利な立場に立っているかに見える。ではこれから、2つの媒体そのものについて考えてみたい。実は僕個人としては、新聞の優位性を十分に認めているのだ。

先ず、新聞は紙である。インターネットのように、モニタに表示されては消えていくものではない。燃却もしない限り残り続ける。次に、紙である新聞は、切り貼りや書き込みが可能である。つまり、大抵作な言い方だが、公に出された均質的な情報を自分なりにカスタマイズできる。

今言、た2点、新聞は燃せしたりしない限り残り続けるということ、情報のカスタマイズが可能であるということを考えて併せれば、新聞をとり続ける限り、僕は自分色に染まった情報の束を蓄積していくことになる。これが、僕らが考えたこと、感じたことの履歴書として機能する。この点で、載っている情報の内容でなく、新聞が紙である、というこの一点で、僕は新聞を支持したい。